

様式 1 3

会派視察研修計画書

令和5年10月20日

碧南市議会議長 様

会派名 慧政クラブ

代表者名

林田 要

下記のとおり、視察（研修）を計画したので届け出ます。

参加議員	林田 要、藤浦伸介	
日時	令和5年11月15日（水）～令和5年11月17日（金）	
視察先	高知県香南市、高知県、高知県中土佐町、高知県高知市	
研修内容	香南市「保幼小中・家庭・地域連携一貫教育について」 高知県「県議会傍聴者向け託児サービスについて」 中土佐町「南海トラフ地震対策について」 高知市「こどもによるまちづくり支援事業（こうちこどもファンド）について」	
日程	1日目 碧南中央駅～電車にて中部国際空港～飛行機にて高知空港～タクシーにて香南市（研修）～電車にて高知市（宿泊） 2日目 徒歩にて高知県（研修）～電車にて中土佐町（研修）～電車にて高知市（宿泊） 3日目 徒歩にて高知市（研修）～電車にて高知空港～飛行機にて中部国際空港～電車にて碧南中央駅	
交通手段	公共交通機関利用 乗降車駅名（碧南中央、中部国際空港、のいち、高知、土佐久礼）	自家用車利用 _____ 台 所有者名（ _____ ）

（議会事務局記入）

旅費の額	(内 訳)
円	

様式14

会派視察研修報告書

令和5年 / 月 / 日

碧南市議会議長 様

会派名 慧政クラブ

代表者名

林 田 要

下記のとおり、視察（研修）を実施したので報告します。

なお、参加者議員 2 人分の視察研修成果報告書を添付いたします。

参加議員	林田 要、藤浦伸介
日 時	令和5年11月15日（水）～ 令和5年11月17日（金）
視 察 先	高知県香南市、高知県、高知県中土佐町、高知県高知市
研 修 内 容	香南市「保幼小中・家庭・地域連携一貫教育について」 高知県「県議会傍聴者向け託児サービスについて」 中土佐町「南海トラフ地震対策について」 高知市「こどもによるまちづくり支援事業（こうちこどもファンド）について」
視察先面会者 又は講師名等	香南市学校教育課長 小松昌司氏 高知県議会事務局議事課長 吉岡正勝氏 中土佐町危機管理室長 山岡友也氏 高知市地域コミュニティ推進課市民活動担当係長 國久雄平氏
備 考	

※ 相手方から収受した資料の写しを添付してください。



様式15

視察研修成果報告書

令和 5年 12月 11日

議員氏名 森田 愛

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期 間 令和 5年 11月 15日（水）～令和 5年 11月 17日（金）
- 2 視察先
 - ・高知県香南市
 - ・高知県庁
 - ・高知県中土佐町
 - ・高知県高知市
- 3 視察の種類 慧政クラブ会派視察研修
- 4 視察の成果等 次項

11/15 高知県香南市「保幼小中・家庭・地域連携一貫教育について」

香南市は中学校区が4つあり、いずれの地区においても表題の保幼小中連携一貫教育を実施しており、0～15歳までの保育、教育を一体的に実施するべく、市として教育委員会を中心とした体制を整備された。具体的には従来の年代別で保育士、教諭の役割を担当させていた職責について、先ず情報共有の体制作りから始まり、研修や交流を中心とした協議会を通年で実施しながら、入学前の幼児との関りを小学校教諭が加わるなどしている。

これらの取組みにおいて実際的な予算が発生していない点が特筆すべきものであり、教育長を中心に教育委員会主導で教諭や保育士らの理解を得ながら成果をあげられている。つまり、実践しようという気概のみで実践から目に見える成果まで実現していることは碧南市においても研究、検討の価値が十分にあると言える。

11/16 高知県議会「県議会傍聴者向け託児サービスについて」

高知県議会では他議会と同様、傍聴者席を用意しているが、県議会改選直後の各派代表者会議において親子連れでの傍聴も可能にしたらどうか、という提案から表題のサービス実施に至った。実施まで対象事業の協議を重ね、令和5年6月定例会から供用開始となったが、11月現在までに利用者はゼロである。

事業予算としてシッターの派遣費用が発生するが、実際に派遣された際に費用発生する契約のため現在はゼロである。碧南市議会においても傍聴席まで乳幼児の入場を規制してはいないが、別室を用意するかは協議が必要となるだろう。

11/16 高知県中土佐町「南海トラフ沖地震対策について」

大変ユニークな点として中土佐町は「防災テーマパーク」というコンセプトで町内施設を観光協会が中心となり町外からの視察研修や観光者の誘致を実施されている。高台に設けられた新庁舎をはじめ、海辺に2か所設置された津波避難タワーが印象的であった。特に実際に案内いただいた津波避難タワーは、日常的に近隣住民に開放されており、万が一の際の避難経路を訓練で身につけることができない。当日は雨天のため見受けられなかったが、天候の良い日は散歩道の一つとして利用されている方も多いと聞いた。

碧南市においても、避難所開設時に避難者が少なく、いざという時の避難所運営のノウハウも含めて、日常的な避難行動に結びつく施設や行政サービスの必要性を感じた。

11/17 高知県高知市「こどもによるまちづくり支援事業（こうちこどもファンド）」

高知市では、子供によるまちづくりの提案と、その提案の審査を子供自ら実施するという事業に勤しまれている。実際に助成を受けた事業もあり、実際に提案経験のある子供が現在、高知県庁に入庁されたとの説明もいただいた。自らのまちの課題を子供の目線で見つけ、解決手法を考え、その考えに対して助成するという継続的な事業は全国でも例がなく、諸々の条件をクリアすれば誰でも提案者となれることは画期的である。これまでに90件の事業提案が採択されており、助成金は合計1,380万円とのことであった。

碧南市においても将来的に社会活動に対する意識をもった大人が増えることになり、同時に生まれ故郷を大切にしたいという気持ちの醸成につながる可能性があると考え、今後の新規事業として決して損のないものではないかと考える。

視察研修成果報告書

令和5年12月11日

議員氏名 藤浦伸介

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期間 令和5年11月15日（水）～令和5年11月17日（金）
- 2 視察先
 - (1) 高知県香南市
 - (2) 高知県
 - (3) 高知県中土佐町
 - (4) 高知県高知市
- 3 視察の種類 慧政クラブ 会派視察研修
- 4 視察の成果等
 - (1) 11月15日（水）14:00～15:30 香南市「保幼小中・家庭・地域連携一貫教育について」

市内に中学校が4校あるが、全ての中学校区で保幼小中連携一貫教育を推進している。香南市では、行政組織としてこども課が教育委員会に属しており、保育所と幼稚園、小中学校の連携が取りやすい環境にあることも一つの要因だが、市として0～15歳までの保育・教育を一体的に推進しようとする教育理念がしっかり浸透している。園や学校をまたいだ子ども同士の交流、教員同士の研修や交流によって、入学前の子どもの様子を知ることができ、スムーズな接続に寄与していることに加え、地域や家庭も様々な面で交流・支援している。こうした取り組みは、言わば会議の開催のみで、人件費は伴うものの、事業予算化されていない。関わっている教諭が「市からやらさ

れている」という気持ちで臨むと、不平や批判しか出てこないが、全員で一丸となって取り組んでいるということで、学校の教員のみならず保育士・幼稚園教諭からも好評とのこと。県指定のモデル事業になっており、今後も成果が期待されている。

- (2) 11月16日(木) 10:00~10:30 高知県議会「県議会傍聴者向け託児サービスについて」

平成31年4月に各派代表者会議を開催した際、2つの会派から「親子連れでも膨張しやすいように、開かれた議会に向け取り組むこと」との申し入れがあり、議会運営委員会で協議することとなった。その後、同年12月までに5回委員会を開催し、結論として託児サービスを実施することとなり、令和2年6月議会から開始する、という方向に進めたが、新型コロナウイルスにより、開始時期を延期することとなった。新型コロナウイルスが今年5月に5類に移行したことに伴い、令和5年6月議会から実施することとなった。6月と9月の定例会では実績がない。事前申し込みが必要で、申し込みがあった場合は応接室を開放し、シッターを派遣してもらう、という仕組み。シッター派遣にかかる費用は議会負担で、予算を執行するのは実際にシッターを派遣した場合のみで、1回11,000円。高知県議会は議会だよりを県民に全戸配布しており、そこで制度のPRはしている、とのこと。視察項目とは関係ないが、議会だよりを全戸配布しているということに驚いた。

- (3) 11月16日(木) 14:00~15:30 中土佐町「南海トラフ地震対策について」

津波を防ぐことは不可能だと理解し、津波襲来時に住民の命だけは守れることと、その後の復興が迅速に行えることを念頭に置いたハードとソフトを組み合わせた施策を展開している。東日本大震災以降、津波の想定が、それまで7mだったものが14mとなり、加えて1.8m地盤沈下も生じるということで、津波避難タワーを建設した。建設時には住民から反対もあったということだが、災害時のみでなく、常時開放することによって納得してもらい、観光要素を取り入れている。タワー内には備蓄庫が備わっており、その入り口の鍵は非常時用鍵箱の中にあるが、この鍵箱は震度5以上の揺れを感知すると開く仕組み。過去に震度4の地震があった時には開かなかった、とのこと。この鍵箱は約26万円で、碧南市内の各避難所にあるとよい、と思った。この町は「防災テーマパーク」のまちづくりというキャッチフレーズで、視察申し込み窓口は観光協会であったことはユニーク。

- (4) 11月17日(金) 10:00~11:30 高知市「こどもによるまちづくり支援事業(こ

うちこどもファンド) について」

子どもによるまちづくりの提案を、子どもたちが審査（助成決定）し、子どもたちが活動を実施するという、全国的にも先駆けた取り組み。「子ども」を中心としたまちづくりの活性化、将来の高知市のまちづくりを担う人材の育成、子どもにやさしいまち高知市の実現という、聞いただけでワクワクが止まらない夢のある話であった。平成24年度から始まった事業だが、市内に在住・在学・在勤している18歳以下の子どもが3人以上いること、サポートする大人が2人以上いること、2世帯以上の子どもで構成されていることが資格条件で、住んでいる地域や学校の周りをもっと楽しくて暮らしやすいところにする活動が対象。これまでに90件の事業が採択され、1,380万円の助成を行った。事業開始から10年以上経過しているが、これまで約2,000人の子どもと320人の大人関わった。「参加した子どもが市職員に就職した実績は？」との問いに、「県庁へ就職した子はいたが、残念ながら市役所には…」とのこと。自分のまちについて、自分たちの発想で事業に取り組んだ実績のある子どもが、大人になってからどのように自分のまちにフィードバックするのか。見返りを期待するものではないが、こうした経験を持つ子ども達が大勢いることが財産である、と感じた。